■　第１回　新潟市スポーツ施設の未来構想会議

～「スポーツ×拠点性の向上」に向けて～

日時：令和５年６月６日（火）13 時 45 分～

会場：新潟市役所　本庁舎６階　議会第５委員会室

（司　会）

定刻になりましたので、これより第１回新潟市スポーツ施設の未来構想会議を開催いたします。

本日の司会を務めます、スポーツ振興課の橋本です。よろしくお願いいたします。

冒頭に、会議の公開及び議事録の取り扱いについてご説明いたします。本市の指針によりまして、会議は原則として公開とすることとしており、この会議につきましても傍聴が可能となっております。そして、会議の内容につきましても、後日、会議録を作成し、ホームページなどで公開させていただきます。会議概要等作成のため、録音させていただきますことをご承知おきください。傍聴者の皆様におかれましては、お配りした傍聴に関する要領に従いまして傍聴をお願いいたします。

はじめに、市長よりごあいさつ申し上げます。

（市　長）

市長の中原です。一言ごあいさつをさせていただきます。

日ごろから新潟市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、本日は大変ご多用のところ本会議にお集まりいただきまして、心から感謝申し上げます。

新年度は新潟市の新たな総合計画がスタートする年でありますし、また、新型コロナウイルス感染症も５類に移行し、これからは社会経済活動の回復とポストコロナ時代のまちづくりを進めていくうえで大きな転換期と言えると思います。スポーツにおいても国際大会や全国大会、合宿の誘致などによる交流の推進、プロスポーツの観戦などを通じました市民の地元への愛着の醸成、賑わいづくりなど、本市のスポーツを生かしたまちづくりをなお一層進めていきたいと考えております。

新潟市の施設を見渡しますと、新潟市体育館や鳥屋野運動公園野球場などにつきましては、皆様ご承知のとおり昭和 39 年の新潟国体前後に造られまして長年にわたって市民に親しまれてまいりましたが、老朽化による大規模な改修などが必要な状況であります。一方、市民やスポーツ関係団体などからは、国際大会や全国大会などハイレベルの競技に接することの

できる大規模アリーナの設置を求める声をいただいております。また、国が掲げるスタジアム・アリーナ構想などでも、スポーツ施設を活用したまちの賑わいづくりが提案されております。

つきましては、スポーツ関係はもちろんですけれども、まちづくりや経済、観光といった分野における有識者の皆様に、この未来構想会議へのご参加をお願いした次第です。皆様からは、政令市新潟にふさわしいスポーツ施設について、スポーツの枠にとらわれることなく自由で活発な議論と、まさに未来構想の名のもと専門的な知見を遺憾なく発揮していただきまして、本市の明るい未来を描いていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（司　会）

ありがとうございました。

なお、市長はほかの業務があるため、ここで退席とさせていただきます。

（司　会）

皆様のご紹介の前に、お手元にあります資料の確認をさせていただきます。１枚目から次第、次に委員名簿、次に席次表、次に会議の開催要綱、最後、配付資料一式となっております。不足等ありましたらお知らせください。

よろしいでしょうか。

ここで、本日お越しいただいた委員の皆様を名簿順にご紹介いたします。ご紹介後、名簿順で一言ごあいさつを頂戴したいと思います。

お配りしました委員名簿をご覧ください。大野公彦委員。坂上昭委員。谷川朝美委員。中山正子委員。西原康行委員。山口誠二委員。以上の６名となります。なお、所属、役職等につきましては記載のとおりとなりますので、省略させていただきます。

それでは、大野委員より順に一言ずつごあいさつをお願いいたします。

（大野委員）

皆さん、こんにちは。今、ご紹介がありました、株式会社新潟アルビレックスランニングクラブの大野です。

スポーツ関係者はよく自分の種目のこと、スポーツのことばかり言う人間が多い世界ですので、私は陸上の会社になりますけれども、なるべく陸上競技以外のスポーツのことも、またスポーツ以外のこともいろいろ話ができたらと思っておりますので、よろしくお願いいた

します。

（司　会）

続きまして、坂上委員、お願いいたします。

（坂上委員）

坂上です。よろしくお願いいたします。

私はスポーツ協会の副会長という立場で参加させていただきます。スポーツ協会でいろいろな会合がありますけれども、一番発言が多いということで、この席に呼ばれたのだと思いますが、その特徴を遺憾なく発揮したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（司　会）

谷川委員、お願いいたします。

（谷川委員）

私は一般社団法人新潟青年会議所よりまいりました、谷川朝美と申します。よろしくお願いいたします。

新潟をよりよくということで、新潟青年会議所にも所属しておりますので、少しでも何か力になれるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

（司　会）

中山委員、お願いいたします。

（中山委員）

新潟商工会議所の新潟活性化委員会の委員を務めております、中山正子です。

やはり新潟は、アルビレックス、いろいろなチームがあるように、スポーツはとても熱量があると思うのです。その高い熱量と、また、これからいろいろな施設を造ることによって観光産業にもつなげる、そして、新潟にいかに日本中から、そしてまたインバウンドにつながるようなということを考えながら務めていけるといいかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（司　会）

西原委員、お願いいたします。

（西原委員）

新潟医療福祉大学の西原です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は新潟医療福祉大学に勤めておりますが、担当が社会貢献、地域連携の担当副学長で、実は、スポーツ専門なのですが、先ほど大野委員からスポーツを離れたところでの考え方というお話をされていまして、私もスポーツというよりも、少し頭の片隅にありながら、やはり、新潟のまちづくりということを考えていきたいなという部分と、あと、大野委員が陸上に限らずと言ったことでほっとしました。よろしくお願いします。

（司　会）

山口委員、お願いいたします。

（山口委員）

新潟観光コンベンション協会の山口です。

私ども協会はコンベンション、大会・会議等の誘致をしている中で、特にスポーツイベントについても地域に及ぼす経済効果が非常に大きい、また、交流人口の拡大が大きいということで、10 年ほど前になるのですけれども、西原委員にいろいろなご指導をいただきながら新潟市におけるスポーツコミッションを立ち上げました。そういう中で、スポーツ施策につきましては、地元・市民目線のインナー施策、それから、外からいかに交流を増やしていこうといったアウター施策という二面があるかと思うのですけれども、私は主にアウター施策の視点で発言させていただきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

【議事（１）会長の選出】

（司　会）

次に、議事に入りたいと思います。議事（１）会長の選出です。会長の選出は、お手元にあります新潟市スポーツ施設の未来構想会議開催要綱第４条により、委員の皆様の互選により決定するとあります。つきましては、スポーツ振興課長を仮の議長として会長の選出の議事を進めてまいりたいと思います。皆様、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

（寺尾スポーツ振興課長）

それでは、自席にて失礼させていただきます。恐縮ではありますが、会長選出まで仮議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局から説明がありましたとおり、会長は委員の互選により決めることとなっておりますので、選出の方法は皆様からのご推薦により行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声）

それでは、ご異議がないようですので、皆様からのご推薦をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

（山口委員）

会長ですけれども、新潟市スポーツ推進審議会の会長も務めていらっしゃいます西原委員が適任かと思います。私からは、医療福祉大学副学長の西原委員を推薦させていただければと思っております。よろしくお願いします。

（寺尾スポーツ振興課長）

ただいま、西原委員を会長にというご推薦がありましたが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声）

ありがとうございます。それでは、満場一致で西原委員が会長にご就任いただくということで、よろしくお願いいたします。

会長、恐れ入りますが、会長席へ移動をお願いいたします。

それでは、仮議長はこれにて退任させていただきます。ありがとうございました。

（司　会）

それでは、ご就任いただきました西原会長より、一言ごあいさつを頂戴したいと思います。

（西原会長）

今ほど会長にご推薦いただきました西原です。改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。

このテーマが未来構想会議ということで、非常に大きなテーマになっています。また、事務局の方とお話しして、未来ということをどこに置くのかといったところで随分変わってくるのかなという気がしています。恐らく、スポーツ施設ということを考えると、やはり、30年、40 年、50 年先というものを見てやっていかなければいけないのだろうと思っておりま

す。スポーツはちょうど戦後50年たって、2000年くらいからようやくこの20年くらいでいろいろ変革が起きて、これからのスポーツを定めていく時期なのかなと思っています。スポーツと社会、政治経済というのは非常にリンクしているので、まさに日本の経済とか社会とか政治、このスポーツが本当に一緒になって動いているなと思っています。そういったことも含めて、今日は本当に有識者の方々がお集まりいただいていますので、いろいろな立場からご意見をいただいて、この会議を進めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（司　会）

西原会長、ありがとうございました。

以降の議事につきましては、西原会長から進行をお願いいたします。

【議事（２）新潟市スポーツ施設の未来構想会議について】

（西原会長）

それでは、早速ですが、次第に従いまして議事を進めていきたいと思います。

議事（２）になります。新潟市スポーツ施設の未来構想会議について、事務局から説明をお願いいたします。

（寺尾スポーツ振興課長）

それでは、事務局の寺尾から説明させていただきます。

お手元の資料１、新潟市スポーツ施設の未来構想会議について、副題～「スポーツ×拠点性の向上」に向けて～をご覧ください。この会議を立ち上げる背景からご説明させていただきますが、先ほど市長からあいさつがあったとおり、背景といたしましては、新潟市体育館、それから鳥屋野運動公園野球場といった、１巡目国体で整備された施設が建築後約 60 年間経過しておりまして、老朽化が進んでいるという状況です。それから、市民、スポーツ団体などからは、やはり、主に大規模アリーナなどが、新潟県には県立アリーナがないというお言葉もあるのですが、大規模アリーナがないというような、そういった設置を求める声もあるのが現状です。

それから、先ほど申し上げましたとおり、スポーツ施設の今後の改修、それから設置等を考えるに当たっては、スポーツイベントの開催はもちろんなのですが、その他の施設の活用方法といったものを考えて、まちの賑わいづくりも視点の一つになってくるというように考えております。こういった背景から、有識者の方々にお集まりいただきまして、県庁所在地

としての県都新潟市・政令市にふさわしいスポーツ施設のあり方について、ご提言をいただきまして、将来的には県など関係機関と連携しながら今後の施策に生かしていくというのが、この会議の開催の目的です。

また、副題につきまして、少し説明させていただきます。冒頭、「スポーツ×拠点性の向上」に向けてと初めてご紹介いたしましたが、こちらの副題について、ご説明させていただきます。後ほどご説明いたしますが、スポーツ施設はプロスポーツや全国大会が開催できるものから、利用者の方、利用主体が地域住民であるものまで、さまざまあります。この会議で議論していただきたいスポーツ施設、つまり、我々がこの副題に込めて思い描く未来のスポーツ施設は、まちの賑わいを生み出し、拠点化、活性化に寄与していく施設というように考えております。委員の皆様におかれましては、この副題の趣旨をご理解いただきたく、お願い申し上げます。

また、参考ですが、私どもで今年の３月に策定いたしました新潟市スポーツ推進計画第３次「スポ柳都にいがた」プランでも、生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりとして、本市の拠点性を生かしたスポーツ施設のあり方を検討します、とあります。それから、スポーツを生かしたまちづくりに向けて、ナショナルレベルの大会や合宿等を積極的に誘致し交流を推進しますといった施策を掲げております。こういったことから、こちらの会議の議論をおすすめいただくように、よろしくお願いいたします。

（西原会長）

今ほど、開催の目的、それから副題を含め、非常に重要なところでありますので、これをスタートするに当たって皆様から一人ずつ、このテーマ、それから副題について、ご意見をいただければと思っております。いかがでしょうか。

よろしいですか。では、また名簿順で大野委員からよろしいですか。

（大野委員）

冒頭、あいさつでも少しさせてもらったように、スポーツの関係者はよく、野球の方は野球の話をしますし、サッカーはサッカーの話をしますし、陸上は陸上の話をします。施設に関して言うと、どうしても自分たちの種目特性に合わせた施設をよく現場では提案していくのですけれども、これはあくまでも行政がやる公的な施設ということなので、先ほど副題にあったように、スポーツの拠点化と活性化というのは、やはり、コンベンション的に何か大きな大会をやればその関係者が集まるのが必然なのですけれども、スポーツと関係ない県民、市民の人が日常的にそこの施設に集まって、健康づくりであったり、子育ての部分もできる

ような物差しというのは少し外せないのかなと考えています。

なので、先ほど言ったように、我々競技現場がそれぞれ強化であったり、いわゆる大会誘致をするための使用ということは当然あるものの、そこに寄せすぎてしまうと、どうしても今言った公共性であったりとか、もう少しスポーツに関係ない人たちも同じ場所に集って普段から活用していくという部分が薄らいでしまうので、どちらかというと、競技の部分もそうなのですけれども、ダブルスタンダードの考え方が大事なのかなと思っています。

あと、競技に寄せると、先ほど言ったように、陸上競技場などはサッカーの方に言わせるとサッカー場にしてくれと言うし、陸上の人にしてみると陸上競技場にしてくれと言うし、さらに、アメフト、ラグビーの人たちになってくるとＶＩＰルームを作ってくれみたいな話になって、何というか、考え方によっては競技種目が違ったとしても共栄共存できる施設の使用が必ずあると思っていますので、その辺はまた種目問わずこの場でアイデアも含めて話ができたらと思っております。副題も含めてありましたので、そのようなことを考えております。

（西原会長）

スポーツ×拠点性というものが入っているので、そういう意味では広くとらえられるということですね。

坂上委員、お願いします。

（坂上委員）

今の話を受けて、私はスポーツ協会の副会長という立場で、細かなところはまたいろいろなお話を申し上げますけれども、一つは、拠点性という意味で、地の利を見たときに、新潟市というのは沖縄を含めると真ん中ではないですけれども、北海道からも九州からも、もちろん東京からも、日本海側とはいえ、割と真ん中ということになると、その拠点性というのは、実は優れていると。そこについて少し目がいかなかったせいもあって、例えば、今の金沢だとか仙台だとかというところに少し見劣りしているのかなと。ただ、全国大会をやるにしては非常にアクセスがいい。新幹線がある、高速道路がある、それから港もあるということで、そういう意味で言うと、新潟の地の利を生かせる施設というものも考えていく必要があるなと。

その一番ポイントとなるのが、インドアであればアリーナという形になると思います。少し競技に偏りますけれども、先ほど話がありましたように、県立体育館がないのは日本全国新潟だけということであります。だから、そういう施設を新潟に造ることによって、スポー

ツで人を呼ぶというのもありだなと。なぜかというと、スポーツの場合は、そこで試合をやるというと必ず全国から大会誘致で集まるわけです。新潟に来ていただければ、食べ物がおいしいとかそういったことを知ってもらえる機会になると。そういう意味で、スポーツ施設、大規模なものを造ることによって新潟に人を呼んで、それをきっかけに新潟のよさを知ってもらうというのもありかなと思います。

あと、強化についてもう一つ言えば、東京オリンピックであれだけの成果を収めたものの一つが、東京都北区にある味の素ナショナルトレーニングセンターですか、あれがとてもうまくいったのです。私は競技はバドミントンですけれども、バドミントンにしろ卓球にしろ新体操にしろ、あそこで常に合宿をやっています。あれの日本海版みたいなものが、これは国がどう乗ってくるか分かりませんけれども、そういったものを造ることによって拠点が二つになると。そういう形で、少し大風呂敷を広げましたけれども、未来というのであれば、そのくらいの大きなイベントを考えて、新潟市が手を上げるということがいいのかなと思っています。

このあいだのＧ７財務大臣・中央銀行総裁会議でも、新潟でやったあと、そういうニュースが全国にばんばん出ましたよね。スポーツでもそういうことができると、拠点性、それから人を集める仕掛けになるかなと思います。

（西原会長）

やはり、新潟の地の利ですよね。それから、先ほど山口委員もおっしゃったように、外から人が入ってくるということがスポーツによって可能ではないかということです。

では、谷川委員、お願いします。

（谷川委員）

私はアルビレックス新潟のサッカーが大好きで、毎週、ホーム戦があるときは見に行ったりしているのですけれども、シーズンパスで見たりしているのですけれども、やはり、県外から来るとか、新潟の方はけっこうスポーツに熱く応援できる県民性というか、何というのですか、そういうものを持ち合わせているのかなと思っています。もう少しスポーツを呼び込むというか、どこまでどうなっているか私も詳しくは分からないのですけれども、呼び込むことによって、また県外からの方が来ることによって、新潟のよさをもっと知ってもらえたり、そういうものにつながっていけたらいいのかなと思います。

あと、私は青年会議所で調査したことがありまして、アルビレックス、野球の方もいたりして、球場が少ないのですか、新潟市に大会で利用できる球場が少なかったりナイターがで

きる野球場が少なかったりするので、そういったものも、今、ＷＢＣとかでけっこう野球も盛んにいなってきているようなので、子どもたちの未来のためにも、そういった施設が増えることによって未来がまた明るくなるのではないかと思っております。

（西原会長）

確かに、未来ということは子どもたちですよね。子どもたちが将来、きちんと活用できたり、魅力的なものになるといいですよね。

では、中山委員、お願いします。

（中山委員）

高校くらいでスポーツというものと一切縁がなくなっているので、なかなかあれですけれども、やっていたスポーツが、それこそスポーツの話で言えば、私は競泳とヨットだったので、あまりアリーナに関係ない、どちらかというと港を整備してくれくらいにその当時は思っていたなということを思い出していました。

それで、拠点性というのは非常に大事なことで、経済界でも必ず、新潟の経済同友会とかでも必ず拠点性の議論になるのです。拠点性というのはやはり行き止まりにしてはだめで、ここからもいける、あちらからも行けるというつながり感が非常に重要になってきます。そうなったときに、新潟市で素晴らしいアリーナを造りましたと、それは多分、素晴らしいのだと思うのですけれども、そのアリーナがよそにあるアリーナとも上手につながるような、例えば、転勤で新潟からどこかに行ったときも同じように楽しめるとか、そこで新潟にいたんですよと言ったら、新潟のアリーナでしたねみたいな、何というのでしょうか、試合でも何でもいいのですけれども、孤立しない、新潟だけすごいアリーナがあってというだけではなくて、そういうものをきっかけに国際的にもつながっていくということが非常に重要かなと思っています。

2002 年の日韓ワールドカップのときに新潟に誘致していただいて、ものすごくサッカー熱が新潟で上がりましたよね。あのときも、やはり、韓国でも日本でも、韓国人の友達でも、新潟はサッカーのスタジアムがあったよね、何とかだよねと言って話題が弾む。そしてまた、じゃあ新潟に来てみようというような話になったりもするので、意外にスポーツは引っ張るところが強いなと思っています。そういうことも拠点性の向上の一つになるのではないかと思っています。

（西原会長）

拠点、新潟に一つではなくて、そこからいろいろなネットワークが張られていって広がっていくという可能性ですよね。

最後に、山口委員、お願いします。

（山口委員）

まだ会議の入り口の部分で、まずは標題、副題のところの感想なのですけれども、正直なところ、「未来構想会議」というように言われると、非常に荷が重いというか、子どもたちの未来に向けてといったように大きな課題と責任を与えられているような、またどこまで求められているのかもやもやとした部分があるのです。ただ、副題のところで「スポーツ×拠点性」というところでは、私どもが日々スポーツコミッション活動の中で首都圏等の中央の競技団体にセールスをするときに、やはり、拠点性って何だろうと説明するときに、交通アクセスの良さが一つ出てくると思います。

これは新潟という地の利が、先ほど坂上委員からも触れられましたけれども、日本の中心部にあり、例えば、ウィンタースポーツだとどうしても北海道とか長野になりがちというところに、新潟だとどこからもアクセスがいいよねと。例えば、新潟にアイスアリーナがあることによってカーリング競技などは全国大会が誘致できたケースもあったり、それも日本全国広く見たときの拠点性という一つの部分なのかなと思っています。

スポーツ振興課さんからの最初の説明でスポーツ施設が老朽化していますということなので、未来に向けてどう再編をしていくのかを求められていらっしゃるとは思うのですけれども、やはり、拠点性ということに戻りますけれども、広く見た拠点というのも一つありますし、新潟に入ったときに、地元の人も含めた交通アクセスであったり、他都市を見ると、一つの郊外の公園にいろいろな施設が集約していて、交通アクセスも１本で行けるし、周辺の売店というかサービスというか、そういったこともすべて１か所で済むみたいなものも一つの拠点性といったことなのかなと思っております。

施設という面ではスポーツはいろいろな競技種目があり、やはりそれぞれに対応した施設がないとできないと思っています。スポーツ施設も大切な地域資源の一つかと思っていますので、きちんとどういう施設が必要なのか、アリーナなのかどうなのか、屋内型なのかということも含めて私も勉強させていただければと思っております。大野委員が携わっておられましたけれども、日本陸上選手権大会が新潟で２回もできたというのは、デンカビッグスワンスタジアムがあるし、あとは、やはり、新潟の受入体制が整っていたということとか、それも大きな拠点性の一つなのではないかという感想を持っているところです。

（西原会長）

未来構想会議というテーマが大きいということですが、逆にこれであれば、何というのでしょうか、将来的なところは幅広く見られるという意味で、もやもや感というお話もありましたけれども、もやもやした中から探っていくということかなと思います。

あと、拠点性というのは外との関係性、皆さんからお話を聞いて、もう一つあれですよね、新潟市内の拠点として、例えば、コンパクトシティの中にどう入れていくかとか、そのようなこともあるわけです。ありがとうございました。

では、皆様からご意見をいただいたうえで、今更変えることはないと思いますが、よろしいでしょうか。テーマ、副題をこれで進めていきたいと思います。ありがとうございました。

では、続いて、議事（３）になります。スポーツの現状と課題について、事務局からお願いいたします。

【議事（３）スポーツの現状と課題】

（スポーツ振興課 高橋）

スポーツ振興課の高橋から説明させていただきます。

お手元の資料２をご覧ください。本市の公共施設の現状や今後の管理計画などについてご説明します。本市の公共施設の約３分の１が建設から約 40 年が経過し、大規模な改修が必要な時期を迎えております。今あるすべての公共施設をそのまま維持する場合、改修や建て替えにかかる費用は、今後 50 年間で約 9,000 億円かかる見込みです。また、維持管理にかかる経費も、現に、年間およそ 970 億円かかっており、今後、人口減少によりさらに負担は増加していくことが予想されております。すべての施設を現状のまま維持することは、こういった数字からも困難であり、施設の集約化など再編に取り組む必要があります。

ちなみにですが、ほかの政令指定都市と比べてどうなのかということについて資料３をご覧ください。この資料は、同規模の政令指定都市で施設の種類別、そして人口 10 万人当たりの施設数を記したものになっております。左から二つ目、スポーツ施設は新潟市が 10.59 と、他都市より非常に多く、ほかの区分を見ましても軒並み多いというのが現状です。

資料２に戻っていただきまして、左側の中段以降です。施設のあり方や効率的な管理、利活用の方向など、本市の取組みの指針となる財産経営推進計画について記載しております。この計画は、二つの基本方針、四つの柱からなります。施設の総量の削減、そしてサービス機能の維持というのが二つの基本方針です。

この方針に則り、着実に計画を進めるためのベースとなるのが、右側にありますスポーツ

施設の配置方針になります。この方針の中で、スポーツ施設は三つの圏域で区分されています。一番上、圏域Ⅰは、国際規格であるなど、全県的に見て高機能な施設。一つ飛ばしまして、圏域Ⅲというのが、利用者がほぼ地域の住民、地域にあるスポーツ施設です。それ以外に当たるものが真ん中の圏域Ⅱです。その下、課題にもあるように、当然、スポーツ施設も総量の削減が必要とされています。

施設の配置及び運営改善の方向性ですが、圏域Ⅱ施設を低利用や老朽化などの課題があれば集約するということを基本とし、さらに、施設全体のコストを見直していくものです。

再編案の現在の進み具合ですが、新潟市スポーツ協会からは、まずは、スポーツ施設にかかるビジョンを示していくことが必要ではないかというご指摘をいただいているところです。

続きまして、資料４をご覧ください。本市のスポーツ施設の現状などについてです。本市のスポーツ施設の数ですが、資料の真ん中より下の一覧のとおり、スポーツの種別ごとに分けた場所、145 施設あります。その次にあります資料４補足は、その施設を一覧にしたものです。ご覧いただいているように、現在、市にくまなくスポーツ施設が配置されている現状です。しかしながら、圏域Ⅰ施設、国際規格であるなど、全県的に見て高機能といわれる施設は四つです。そして、その一つであります新潟市陸上競技場や、117 施設あります圏域Ⅱの施設の中で、鳥屋野運動公園野球場などは喫緊の課題として老朽化への対応が必要な状況です。

今ほど喫緊の課題という言葉を使いましたが、その状況を分かりやすく表にしたものが、資料５です。見出しとして、喫緊な課題として老朽化への対応が必要な施設の概要としております。もちろん、全市的に見ればこれだけというわけではありませんが、代表的な施設とご理解いただければと思います。

中身ですが、鳥屋野運動公園にあります野球場、球技場、馬術場、下に行きますと、白山公園一帯エリアにあります新潟市陸上競技場、新潟市体育館など、いずれも建設から約 60 年を経過しております。本市の公共建築物長寿命化の指針によりますと、施設の目標使用年数を 80 年としております。80 年を基本としているところから、あくまでも単純な計算になりますと、使用期間はあと 20 年ほどとなります。

この表の内、施設の再編案の中で廃止の方向性でありますのが新潟市体育館です。さらに、老朽度が高く、その対応がさらに喫緊であるというのが鳥屋野運動公園野球場です。事務局といたしましても、この野球場への対応につきましては、ぜひ、皆様のご意見をいただく場を次回以降の会議のどこかで設けさせていただければと考えております。

最後に、資料６をご覧ください。直接、今あります本市のスポーツ施設の管理運営にかかわるものではありませんが、さまざま取り巻く動きをお伝えいたします。一つ目、新潟県へ

の要望、県立アリーナ建設についてです。新潟県に対しましては、平成 30 年度から国際大会や全国大会などハイレベルの競技に接することができる大規模アリーナの設置を求める声にこたえまして、県市長会を通じて本市に建設することが県の拠点化、活性化にも大きく寄与することから、本市への設置を要望してきました。

次に、日本海ドームシティプロジェクトについてです。日本海ドームシティプロジェクト新潟市民の会が設立され、本市にＮＰＢ新球団誕生と日本海ドームシティの実現を目指した動きがあります。その実現によって大きな経済効果を生み、新潟市の価値を高め、持続可能な明るい未来を造るということを市民の会が掲げているということです。

続いて、三つ目が競技団体アンケートについてです。昨年度、新潟市スポーツ協会加盟団体などから率直な声をいただきました。施設の再編、改修、新設に関する意見を最も多くいただきました。

最後になりますが、白山公園一帯の検討調査についてです。市役所旧分館ですが、取り壊した後の跡地を将来的な市役所本館の建替用地にあてることとしているところですが、それまでの間、分館跡地を含む白山公園付近一帯を対象に、都市の活力の創出に向けた調査を市で実施いたしました。市民や民間事業者からは、「文化・スポーツ」、「公園・憩い・自然」を理想の姿といたしまして、「物販や飲食」、「公園や緑」、「子育てや遊具」など、既存の機能を補完していく施設を望むことへの期待が多く寄せられております。

（西原会長）

今、新潟市のスポーツ施設の現状等をお聞かせいただきましたが、特にここでご質問等ありましたら、これは一人一人ではなくて、何かお気づきの点がありましたらお願いいたします。

（大野委員）

資料３、４の公共施設数ということで、他県との比較対象を見せてもらっているのですけれども、これはスポーツ施設として考えたときに、県立の施設も入った数字なのですか。それとも新潟市の施設のみなのでしょうか。

（寺尾スポーツ振興課長）

こちらは新潟市の公共施設の再編計画の中で調べた数字ですので、新潟市が保有している市立の施設の数です。

（大野委員）

そうすると、ある意味、県立の施設、デンカビッグスワンスタジアムなどがそうでしょうしHARD OFF ECOスタジアム新潟などもそうですけれども、そこは入っていないという認識と、あとは、別の切り口にすると、大学施設なども考えると、新潟市の場合は、そういう意味ではスポーツ施設という意味での割合は多いのかなと思います。ただ、残念ながら、資料４を見ると、これはいわゆる市町村合併に伴う広域の部分になっているので、１回見るとスポーツ施設がほかに比べて多いのかなと思いながら、これは残念ながら合併に伴う弊害の、土地は広がっているのだけれども人口は大して増えずに、気づいたときには旧新潟市以外のところのレベルのところも、規模も含めて入った数字なので、ここのところをどう考えていくべきなのかなと思います。ただ、後半の資料を見ると、割と旧新潟市内の施設関係が概要として出ているので、考え方としては、旧新潟市一帯のことを軸に考えてよろしいのでしょうか。

（寺尾スポーツ振興課長）

おっしゃるとおり、新潟市全域で新潟市の体育施設はこういった広範囲であるのですが、先ほど申し上げましたとおり、どちらかというと地域住民の方が日常的にスポーツをされる施設という形である施設がけっこう多くなっています。もちろん、市域が広いので、やはり、その視点はかなり重要で、気軽に行けるところにスポーツ施設があるといったところでは、各区に豊富に配置されているということは非常にいいことだとは思うのですが、先ほど説明でも申し上げましたとおり、大きい施設になりますと、本市、全県的に見て高機能な施設は四つという現状です。

それで、こちらに掲げております、先ほど申し上げました六つの老朽化している施設ということで上げさせていただいたこちらの趣旨ですが、そういった観点から、こちらはいずれも１巡目国体を前後に造られた、いわゆる全国大会を開催する目的、昭和 39 年当時の趣旨で造られた施設がこちらの六つの施設です。西海岸プールは、屋内は平成 14 年にできたのですが、屋外施設が 50 メートルのプールになっています。

私どもといたしましては、やはり、拠点性といったことを考えたときに、先ほど、拠点性については委員の方々からさまざまなご意見をちょうだいいたしましたが、おっしゃるとおり人を呼び込むといいますか、アクセスがいいといったところで、賑わいを作る、それから県外もしくは市外から人が集う施設ということを考えたところ、こういった、今まで全国大会をやるような規模で造られた施設が、私どもの老朽化で改修が必要なのではないかと考えて、喫緊に必要なのではないかと。それから、こういった議論の中で配置を考えていただく

施設なのではないかということで、こちらの六つを上げさせていただいたところです。

（西原会長）
大野委員、よろしいですか。

（大野委員）
はい。

（山口委員）
事務局への質問になると思うのですけれども、資料６で、スポーツ施設を取り巻く動き、県に要望されたということなのですけれども、県からはどういう反応なのかという記載がないのですけれども、この辺、期待していいのかどうかを含めて質問します。

（寺尾スポーツ振興課長）
こちらは平成 30 年以前に新潟県議会に対して県民の方々から署名が集まって、県立アリーナへの要望の声が寄せられたという経緯があります。その後、新潟市として、新潟市が加盟といいますか、中に入っております新潟県市長会の要望の一つとして、大規模アリーナの設置を要望しているところです。その中で、新潟市から新潟県市長会への提案として大規模アリーナの設置を、皆様のそういった声が大きいということで、要望しております。
新潟県としては、検討は今のところしているものの、まだ具体的な建設の計画にまでは至っていないというようなことはお聞きしております。

（高田文化スポーツ部長）
少し補足させていただきますと、今、概ね課長から申し上げたとおりなのですけれども、県立アリーナの実現に向けては、市長が２月の代表質問でお答えしておりまして、県民の総意のもとに早期に建設が進むよう引き続き市長会を通じて要望していきますということです。それで、建設の機運が高まった場合には、本市を候補地として選定されるように、関係機関としても要望してまいりますという答え方をしているものです。

（山口委員）
やはり、新潟の気候の特性からすると、屋内型というものが求められるケースが多くて、例えば、HARD OFF ECO スタジアム新潟でしょうか、グラウンドだけではなくて、中にけっ

こう広い屋内練習場が二つもあるというのが中央の野球連盟の方々からするとこれはすごい施設だということで、ここはけっこう稼働率も高いはずなのです。そういった意味で、屋内型というのも新潟にとってはキラーコンテンツになるのかなと思います。コストの部分はいろいろあるかと思いますけれども、そういった趣旨も含めて、期待を持って質問させていただきました。

（西原会長）

これから議論を皆さんで深めていく中で、各論を落とし込んでいけばいいかなと思っています。

（大野委員）

冒頭に坂上委員が言ったあれで、今、県立という話をしながら、国立とか、ある種そういった発想とか可能性はなかなか難しいものなのですか。行政のいろいろなあれがあるので、すみません、素人なので聞いているのですけれども。ある意味、言ったように県立で県にというよりは、逆に国なりの、先ほどの発想的な部分とか。沖縄などはスタジアムのすごいのができましたけれども、あれは防衛費の予算で、ある種、恩恵を受けたりしていますけれども。何か手立てとしては、そういうものは時間もかかるのでしょうけれども、けっこうハードルが高いと思うのですけれども、可能性はないものなのですか。

（寺尾スポーツ振興課長）

全くないということはないとは思うのですが、やはり、国の施策の中で国立のアリーナですとかそういったものは位置づけられる形になりますので、例えば、今、例にあります、文化庁が京都に移転しましたけれども、やはり、それも国のそういった地方分散といいますか、そういった方針のもとにされている形になるかと思いますので、要望を上げるのは可能だと思います。ただ、そこで、もしそういう方針が、例えば、国立アリーナを東京以外にも造るべきだという議論が国で起こったということであれば、そういった機会をとらえて、県ですとか市で新潟市に誘致するという可能性はあるかと思いますが、そこら辺は機会を見ながらという形になるかと思います。

（大野委員）

屋内施設は、先ほど山口委員がおっしゃったように、やはり、天気が悪い新潟においては、トップ選手だけではなくて、先ほど言った一般の方の健康づくりの観点だったり子どもたち

のスポーツの観点から言ってもけっこう重要性が高いと思っています。現に、今度、競技のほうから言うと、新潟でオリンピックでメダルを取ったのはレスリングと、水泳で中村さんと、体操ということで、基本的にはバスケットボールも強かったりしますけれども、基本は、やはり、屋内競技がもともとトップアスリートのところで言うと歴史があって、サッカーを含めて屋外スポーツは、正直、オリンピックを含めてメダリストはほぼ新潟は皆無です。

ただ、近年、やはり、サッカーもそうですし我々陸上もそうですけれども、トップは海外・県外に暖かいところに合宿とかキャンプに行くというのが主流になっているので、基本的には屋内施設がなくても今はカバーできている部分が当然あるのですけれども、歴史的な背景を言うと、やはり、当時、カバーできなかったころはインドアスポーツのみになっていますし、今は逆に外に出てカバーしているものの、本当はアウトドアのスポーツもインドアでカバーできるような屋内の施設があれば、先ほど言ったように、通常のアリーナスポーツのみならず、持ってくることは、トレーニングとしてですけれども、拠点としても可能性があるので、もしアリーナ構想をやるのであれば、通常のアリーナスポーツのみならず、アウトドアスポーツのほうも呼び込めるような部分の要素も加味したうえで、その規模のものを造れば効果的だと思うのです。ただ単純にその要素が入らずに通常のアリーナスポーツのみのアリーナを造ってしまうと、やはり、ほかのアリーナとの差別化で言うと、若干厳しくなるのではないかということは、少し。それで、すみません、国という、ある意味少しダイナミックな話をしたのですけれども、そのようなことを少し思いました。

（西原会長）

実は、次の論点のところで。

（大野委員）

そうですか。すみません。

（西原会長）

何かすべてお話しいただいてしまって、またあとで詳しく。まだいろいろ話は出ますか。

（大野委員）

はい。また次のときで。大丈夫です。

（西原会長）

では、次のところでそういうところもお話しいただきたいと思います。

続いて、議事４、論点の確認と今後の進め方について、事務局からお願いいたします。

【議事（４）論点の確認と今後の進め方】

（寺尾スポーツ振興課長）

それでは、資料７、会議の論点について（案）と書いてあります資料をご覧ください。まず、今回の会議を進めるに当たりまして、事務局が考える論点の案として、五つを上げさせていただきました。まず一つ目が、「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設とはということです。それから二つ目が、想定するエリア。三つ目が、民間活力の導入など、その建設や運営の手法。四つ目が、その施設を設置する想定エリアに今ある施設との役割分担などということです。それから最後の五つ目が、人が集まるという形になりますと、渋滞対策、それから交通インフラというところです。

五つの内、一つ目の「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設とはと、二つ目の想定するエリアにつきましては、先ほど、議事の（２）においてお認めいただきましたこの会議の目的と副題とともに重要な論点となっております。補足させていただいたうえで、皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

まず、一つ目の「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設です。三つ、こちらの黄色く色がついているものですが、事務局の考えを提示しております。まず、要望の声もいただいております、国際大会等ハイレベルな競技を行うことができる高い機能を有する施設なのではないかということ。それから、スポーツ以外でもさまざまな活用ができ、まちの賑わいを創出するような施設。それから、本市のみならず県の拠点化・活性化にも寄与できる施設といったものです。

次に、二つ目、想定するエリアです。こちらは資料９、想定エリアの図を合わせてご覧ください。先ほど、現状と課題でもご説明しましたとおり、老朽化への対応が喫緊の課題である施設が白山公園エリアと鳥屋野運動公園にあり、いずれも新潟市の総合計画で定める市全体の市域を越えた広域都市圏をけん引する本市の都心及びその周辺部に当たります。また、都心及びその周辺部は、同じく総合計画で活力ある拠点とすることを目指しています。

この会議の副題を意識したときに、「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設の将来を描くのに適しているのではないかと事務局で考えまして、まず、こちらのエリアの案としてお示しさせていただきました。まずは、こちらの１と２の二つの論点について、ご検討をお願いいたします。

（西原会長）

今、事務局からご説明がありましたが、この二つの論点、非常に重要だと思っております。まず、一つ目の、先ほどご説明がありました「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設について、お話は十分聞いたところもありますけれども、改めてご意見をいただきたいと思っております。ここも大事ですので、お一人ずつご意見をいただければと思っています。それでは、逆で山口委員からよろしいですか。

（山口委員）

「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設のところで、最初に国際・全国大会と、国際大会という言葉が出たのですけれども、そこで忘れてはならないのが、観覧席とか観客席についても考えなければならないと思います。以前、たしか、新潟でも冬季オリンピックを誘致みたいな声が出たときに、長野の事例を学びましたが、毎年毎年、例えば、国際大会をやるための最低必要な観客席は何千席ですよとか、オリンピックレベルになると何万席いるというと、長野で昔、オリンピックをやったときの会場でももう規格に合わないみたいな話があるので、少しその辺、申し訳ないのですけれども、事務局のほうで国際大会、全国大会でどの程度の観客数を考えたらいいのか、それで随分維持費も建設費も全然変わってくると思いますし、少しそこが気になっています。ハイレベル競技というと、デンカビッグスワンスタジアムでもあるとおり、必要とされる規格などそういうところがクリアできればハイレベル競技も行えるかと思うのですけれども、その辺の規模感がどうなのか。すみません、質問になっていないのですけれども、気になったところで。その辺も今後想定していかないといけないところかなと思います。

（寺尾スポーツ振興課長）

山口委員がおっしゃるとおり、国際というか、施設の規格が本当に年々変わっているのが現状だと思います。そういった施設の規模等も、ぜひ、次回以降になるかと思いますが、ご議論の中でご意見をちょうだいできればと考えております。あとは、施設の種別といいますか、スタジアムですとかアリーナですとか、そういったものによっても、恐らく、必要な観客席数は違ってくるかと思います。

それから、一応、こちら、私ども事務局の案で、そういった全国大会や国際大会が、なかなかそういった会場がないというスポーツ団体からもご意見も頂戴したうえで、こういった観点が必要ではないかということでアイデアを上げさせていただいたのですが、もちろん、

それ以外にも建設コストとか、見合うものとか、それから、先ほども申し上げましたとおり、今、スポーツ大会だけではなくて、ほかのものに使われる用途で造られるというところもありますので、そういった観点も含めて皆様からご意見をいただければと考えております。

（山口委員）

スポーツの場合は、するだけではなくて見るというキーワードも大切かと思いますので、その視点も議論に含めていただければと思います。

（西原会長）

では、中山委員、お願いします。

（中山委員）

逆から来たので、私も逆から言いますと、交通インフラの話は非常に重要だと思っていまして、いくらいい施設があっても、そこに行くまでの交通手段がないとか、高齢者の方々に運転をやめろとこれだけ言っているのにどうやって行くのみたいな話をけっこういろいろなところで聞くようになっていますので、そういうこと。

それから、アルビレックス新潟の試合があるときとか、鳥屋野潟の湖南に住んでいる方々は、もう家から一歩も出られないという話があって、それがあることによって、地域に来る方は増えるかもしれないけれども、そこで暮らしている方が生活上最も不便になってしまうということであると、どちらを取るのみたいな話にならないように、やはり、暮らしている方のことも配慮していく必要が、多分、大きくあるのだろうと思います。

それで、資料９の図面に、にいがた２ｋｍがようやく話題に出ていますけれども、にいがた２ｋｍを新潟市が随分一生懸命いろいろなところでおっしゃっているけれども、これはどのように使いたいのでしょうか。新潟市はどうしていきたいのですか。にいがた２ｋｍを生かしていくのであれば、このアリーナ造りましょう問題は陸上競技場と今の新潟市体育館がある辺りに何か上手にやって、歩いて行けますよね、りゅーとぴあからつながりますみたいな話にしていかなかったら私はまとまらないと思います。これを鳥屋野公園側でやりましょうとなったら、にいがた２ｋｍを捨てたのだなという感じになるのですけれども、いいのですか。どこででもにいがた２ｋｍと話題に上がるではないですか。

（坂上委員）

そうですよね。商工会議所でも出ますよね。

（中山委員）

はい。しかし、どうしたいのかが全く分からないのです。市の方に聞いても、うーんとおっしゃるから、うーんというところで、交通インフラとかいろいろなことを考えていったときに、割と市役所のところはバスの便がもともとよかったりしていますよね。そういうことが一つメリットなのかなとは思いますが、かといって、せっかくデンカビッグスワンスタジアムとHARD OFF ECOスタジアム新潟があるのに、こちらの湖南開発をきちんとして、こちらはもう完全にスポーツエリアだという考え方をするのもありかなとは思うのです。そのときに交通インフラをどうしていくのか。今、環状線が通りましたけれども、この先どうするのかなということを少し真剣に議論しなければならないと思っています。

すみません、建設コンサルタントなので、申し訳ないです。

（西原会長）

大丈夫です。交通インフラですね。

続いて、谷川委員、お願いします。

（谷川委員）

中山委員もお話しになっていたのですけれども、やはり、交通アクセス、アルビレックス新潟の試合のときはみんな近寄らないみたいな感じでは言っていたので、新しい施設を造るにしてもそういった面、どうしても、何万人規模になると、やはり混雑するのは仕方がないのかもしれないのですけれども、その辺も、県外から来る方も多いので、無料バス、シャトルバスみたいなものが出ていますけれども、もう少し何か、四方から来られるような施設があるといいのかなと。混雑、混み合わないようにうまくできたらいいのかなとは思いました。

あと、先ほどあった県立アリーナなのですけれども、アリーナについてはよく分からないのですけれども、これはスポーツだけをやるような施設になるのですか。

（西原会長）

県立アリーナですか。

（谷川委員）

はい。何かいろいろなコンサートとかもできたりする施設ですか。

（西原会長）

そうですね。今はそういう複合的なものを、多分、まだ全く白紙ですけれども。

（谷川委員）

そうですよね。そういうものであれば、やはり、スポーツだけではなく、県立アリーナというのであれば、コンサートとか。あとは何ができるのでしょうか。朱鷺メッセでやっているにいがた酒の陣とか、そういう何か新潟をアピールできるような施設があるといいかなと思います。

（西原会長）

やはり、大事なところは交通インフラですね。

坂上委員、お願いします。

（坂上委員）

先ほど出た、スポーツは、高齢化が進んでいるのもあって、我々が現役でやったときに比べると、やはり、見るスポーツというものが、そういうシェアという考え方はないと思いますけれども、スポーツは見て楽しむのもありだなということは、これからしばらくは流れなのだろうなと思うのです。だから、やって楽しむ人とみて楽しむ人ということになると、これからは見る機会を与えるという観点でそういうことを考えていくのが一つあるなと。

それから、二つ目は、未来とついているのであれば、先ほど中山委員が指摘されたところに少し通じるのですけれども、資料９は、今ある場所がこうだからそれに組み合わせているということがもうすり込まれていると思うのです。ただ、もう少し広い観点で行くと、にいがた２ｋｍの観点も出たと。そうすると、この地図の右上、旧入舟小学校跡はスーパーになったのかな、新しいスーパーができた。要するに、我々新潟で言う下町（しもまち）のほうは、再開発をすると、今は人がどんどんいなくなってしまったけれども、そういったところにお金をかけるなりして、そちらに造って、いわゆる中心市街地のほうを発展させるということであれば、これが５年以内に造るということになればどうしても南のほうになると思うのですけれども、もう少し長い目で見たら、そちらに造ってそちらに人を集めましょうという手もあるのかなと。そうすると、交通インフラなどもそこにかけるコストが少なくなるのかなということで、少し長い目で見た場合に、今の施設群に引っ張られすぎるのもよくないのかなと思います。

それから、三つ目は、何と言っても大規模施設が必要だろうと私は思います。それは、国

際大会うんぬんよりも、やはり、全国大会を誘致できる施設が新潟県新潟市には少ないということが、特にスポーツ団体から見ると大きな声になっています。それで、そういう話をすると、東総合体育館もあるじゃないか、それから新津にも新しい体育館があるじゃないか、それと、そこの、今、取り壊しうんぬんとありますけれども、旧の新潟市体育館もあるじゃないかと。そうすれば大会ができるでしょうという話があるのですけれども、それは素人考えです。あまり批判的なことを言うとあれなので。

要は、大会を運営するためには人がいるのです。そうすると、バドミントンでいけば、例えば、40 面のコートがあれば、１会場でできると、そこに審判も運営委員も集中すれば、かりに 300 人でできるとしますよね。会場が分散した場合は、そのところどころに審判と役員がいるわけです。そうすると、300 人が３倍だから 1,000 人。1,000 人も運営スタッフを抱えられる競技団体は、恐らく新潟県にはないから、だからできないという問題もあるのです。そうすると、やはり、核になる大きな施設があって、一部は周辺を使うのは、トーナメント戦の場合、だんだん試合数が少なくなるからそういうこともできるのですけれども、とにかく、核になる大きな施設がないと、まず全国大会というのはどの競技団体もできないということになると思います。

それで、スポーツ団体から少し声が聞こえるのは、上越に県立武道場を造りましたよね。あれは武道の選手はいいのだけれども、観覧席がないから全国大会ができないと。今、ジュニアの全国大会をやると、選手一人に両親祖父母と、５人も来るのです。選手はそこで試合をしていても、その人たちがいる場所がないから全国大会ができないと。これは本当の話なのですけれども。そうなると、やはり、若干コストがかかっても、それだけの設備は造らないと全国大会は誘致できないと。

それで、コストという問題になるのですけれども、私は、もしそういうアリーナ等を造るのであれば、各競技団体に 10 年間は責任を持って全国大会を新潟に誘致しろという義務を与えてもいいと思うのです。本当に。そのように使えば、私は前にずっと銀行にいたのですけれども、お金をかけてもそれが使われている部分については、実は、ローコストなのです。少ないお金をかけて、だれも使わなければものすごく高コストなのです。だから、造ったからには皆さん使いなさいという縛りというか、要望もあるのだったら必ず使ってくれというようなことを、表向きに言うと少し問題があるかもしれないけれども、そのくらいの気持ちを伝えて、できたものはしっかり使えというようにするという仕組みがいるのかなと。

やはり、公のものを造るので、これは新潟県がそういう意識が強いのかもしれませんけれども、とにかくいろいろなものを造ってくれと言うけれども、県内いろいろなところを回りましたけれども、自分でお金を出すのはいやというのが新潟県の気質は少し強いようです。

だから、高いお金をかけて造ったのであれば、利用する、そういう工夫をして元を取るというような仕組みが絶対にいるのかなと思います。利用料金を高くするのは少し問題があるのだけれども、とにかく利用してもらうということを裏で考えないと、施設というのは、造ったはいいけれどもお荷物だねということになるかなと思います。

（西原会長）

山口委員は喜びますよね。コミッションとしては、競技団体が必ず使ってくれるということであれば人がたくさん来るし。

（西原会長）

最後に、大野委員、お願いします。

（大野委員）

資料７の「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設とはということで、この三つの項目は私も同意で、まさにそのとおりだなと感じます。ただ、現場の人間として、国際大会、全国大会の合宿の誘致なり書いてあることを想定して、もう少し現実味のある考え方をしたときに、新潟市はほかのところから比べてかなり優位性があるなと思っています。それはどういうことかというと、先ほど言ったように市の施設だけをピックアップしているのですけれども、かりに全国大会なり国際大会などの誘致を考えたときには、県立の施設と、先ほど言った大学の施設も一体として考えないとうまくいきません。それはオリンピックのときもそうですし、例えば、世界陸上競技選手権大会とか世界体操競技選手権とかでもそうですけれども、基本的に、各国が事前キャンプとかそのように来たときに、どうしても練習場所を大学の施設を借りて使わせてもらったり、陸上で言えばデンカビッグスワンスタジアムが県立の施設ですから、そこで大規模なものを持ってきたときに、ある意味、新潟市の競技場もそうですし、大学施設もそうですし、各国が、やはり、練習を含めての拠点とかというものは、みんなそのほかの施設に求めるパターンがあります。

考え方としては、新潟市の施設ではあるのだけれども、市内にある県立の施設、大学施設も想定して、ある種、考えていかなければいけないのかなと思っています。これは多分、陸上のみならず、各種目、前日に来て試合して帰るわけではないので、そう考えると、もしかしたら、今度は新潟市だけではなくて長岡とか三条とか、もしかしたら新発田も含む、近県も考えたうえで、その種目特性に合わせたものをしないといけないのかなと。

それで、もう１個、レギュレーションの問題なのですけれども、陸上だけで言うと、ずる

いなと思っているのですけれども、要は、国際大会をやる、また、大きな大会をやる場合には、今まで、日本陸上競技連盟の規定だと、国内の第一種基準の施設以上でないとだめですよと言いながら、オリンピックのときは国立競技場にオリンピックを持ってきて、仮設のサブトラックを造って、それで、今、仮設のサブトラックをなくしてしまったわけです。そうすると、第一種の基準がサブトラックも公認の競技場がなければいけないという今までのレギュレーションだったのが、急に、日本陸上競技連盟はずるいので、自分たちが今度は世界陸上競技選手権大会を持ってくるために、オリンピックをやったスタジアムはサブトラックなんかなくても持ってこれてしまうみたいな感じで、今まで競技団体が頑なに言っていたレギュレーションが、実は、案外、交渉によって調整ができるという現実があります。なので、行政のお立場からすると、施設を造るときに、どうしても大本のところからのレギュレーションを守らなければならないということで、かなり費用コスト感を考えなければいけないのですけれども、逆に言うと、交渉ができれば、今まで頑なだったレギュレーションが案外新しい形で調整できたりするので、そういうことをトライしてもいいのかなというのは思います。

それはある意味、陸連とか日本実業団とかの中にいる側からすると、もう少し、日本陸連がずるいのは、先ほど坂上委員も言ったのですけれども、国立競技場に陸上競技場が必要だ、陸上競技場が必要だ、世界陸上競技選手権大会を呼ぶのだ、だけれどもサブトラックはなくても国立競技場だけはいいよみたいにルールを変えながら、ところが、日本選手権をやるときは、国立競技場をお金が高いから使いませんと言って使わないのです。残してくれと。だから、今度、次の話をすると、いろいろなものを誘致したりするには、協会を含めてコーディネーターというか、ある程度責任を持って、先ほど年数の話もしましたけれども、造ったはいいけれども来ませんよではなくて、ある程度コーディネーター的な人物が新潟市にいないと持ってこられないので、いわゆるコーディネーター的な要素のソフトの部分があるのかないのかというのは、少し大事な要素になってくるのかなと。言ったように、日本陸上競技連盟さえも、必要です、残してください、サブトラックなくてもオリンピックやったらいいですと言いながら、肝心の日本選手権は国立は高いので私たちは別のところでやりますと、こういう競技団体でも、裏切りではないのだけれども、はしごを外すみたいなことがあるので、その辺も現実として考えなければいけないのかなと。

あと、聞いたのが、すみません、陸上なので陸上の話をすると、多分、今、全国で日本選手権を受けられる県は、東京は別として、新潟と大阪と神奈川くらいしかないのです。言ったように、競技団体なり競技運営レベルというものがけっこうあって、種目によっては、今言ったように施設というよりも誘致という意味で言うと、案外そういう部分の競技団体があ

るので、その辺も、ある意味ではしごを外されないためにも、少し下調べをしたうえでハードの部分を造らないと、高いお金をかけて造ったのだけれどもだめでした、もしくは、先ほど言ったように、今まではメインの競技場とサブトラックがないとだめでしたよというレギュレーションでしたけれども、案外、交渉してみると、ではサブトラック造らなくても、２階の後ろのスタンドにウォーミングアップ場を造ってしまったら公認、オーケーですよみたいな可能性もあるので、その辺もありかなと思います。

２番の想定するエリアも、まさにそのとおりだなと思いながら、今、ほかの県の体育施設を見ると、分散型ではなくて、やはり、いろいろな意味で効果を高めるために、集中型というか、一つの施設だけではなくて、要するにまとめるというような形にしながら、さらにパーク型、いわゆる施設がそこにただ集合しているだけではなくて、県民、市民の人たちも普段から違った意味でいろいろな利活用ができるような、パーク型というものが大事だと思っています。新潟の場合は、ほかの県だとどうしてもパーク型というか、集中型を造るために、人がいない、土地が安くて離れたところに施設を造る傾向があるのですけれども、ちょうど新潟の場合は、白山公園を含めてもこれだけの中心部にパーク型の集中型の施設が、やすらぎ堤も含めてですけれども、先ほどおっしゃったように、やれるポテンシャルがあるというのは、ほかの県から比べてもかなり優位性があるので、そこの部分を外さない設計というか、まちづくりの観点も含めて入れていく必要があるのかなということ。

あとは、今の時代の中で言うと、パーク型であり、災害の、ある種避難場所というか、ある意味、受け止められる機能とかというものも軸として入れながら考える必要があるのかなと思います。ただ単純にスポーツの関係者だけがいいんだよというよりは、住民の人たちを含めてよかったり、今言ったようにパーク型にしながら、災害の部分も想定した中で機能性を担保していくというのは、少し想定するエリアを見ながら、大事な要素なのかなと思いました。

（西原会長）

ありがとうございました。皆さん、どんどん議事を前倒しで話していただいて、実は、次に拠点エリアの話をしようと思ったのですが、もう先のお話、にいがた２ｋｍの話もありましたし、下町のほうもという話もありました。

では、ここはよろしいでしょうか。このアイデアで考えていくということでよろしいですか。

（大野委員）

新潟空港は県の管轄だと思うのですけれども、あれは国際を見て、特に仁川なのですけれども、あの辺は何かめどはあるのですか。要するに、先々月、ちょうど韓国から選手を呼んだときに、関西国際空港を使って来て、遅れがあって十何時間もかかってしまって、新潟、あれだよねなんていう話があって、市というよりも県のあれなのでしょうけれども、やはり、ハブ空港の仁川と空港がつながっているかどうかというのはかなり、これは観光の面から言ってもそうなのですけれども、その辺はどのような感じなのでしょうか。

（西原会長）

県のあれだから少し分からないところもありますけれども。

（寺尾スポーツ振興課長）

申し訳ありません、はっきりしたお答えはできないのですが、仁川はなくなったわけではなくて休止中の路線の扱いですので、やはり、航空会社の判断でまた新潟便が復活すると、需要がないということはないと思いますので、そういう可能性はもちろんあると思いますし、今後、恐らくまた再開されるのではないかとは思われます。

（大野委員）

市からの意見はなかなか難しいのですか。その辺は多分、けっこう肝になってくると思うのですけれども。

（寺尾スポーツ振興課長）

空港路線開設については、メインでは新潟県が動いていますが、もちろん、新潟市も一緒に動いておりますので、今、路線が就航しているのは大韓航空、コリアンエアーになるかと思いますが、そちらに働きかけを続けていくという形になるかと思います。

それでは、今のご意見なども踏まえて、５番の交通インフラの論点の中に、空港アクセスみたいなところも入れさせていただくような形で書かせていただければと思います。

（西原会長）

そうですね。

すみません、皆さんどんどん先に行っていただいて。では、想定するエリアはよろしいですか。

では、交通インフラを含めた残りの三つの論点について、事務局からお願いします。

（寺尾スポーツ振興課長）

もうすでにいろいろご意見をいただきまして、ありがとうございます。もう十分にいただいてはいるのですが、まず、こちらの３、４、５については、もちろん、今、ご意見があったとおり重要な論点だということでご意見をいただいておりますので、この３、４、５については今後の論点として取り上げさせていただくということで合意いただいたと思っておりますが、そのほかにこういった論点も必要なのではないかというご意見が、この五つ以外にもご意見があればちょうだいできればと考えております。

（坂上委員）

使用料とか、例えば、これがアリーナとした場合に、いろいろな全国大会をやって有料になった場合は、市民は少し安く入れますよというような仕組みもあるといいのかなと。ボストン美術館というところがありますよね。我々が行くとけっこう高いのだけれども、ボストン市民だとほとんどただです。子どもたちもああいう絵を直接見て、北斎のものとかありますけれども、いわゆる新潟市民が新潟市の税金を使ってやっているときに、リターン。あまりそういうことにリターンを求めるのは個人的には好きではないのだけれども、やはり、制度としてそういう利用料などのときに新潟市民であれば多少。アルビレックス新潟が当時、ありましたか。市民には回覧板に割引券が。あれはなかなか人が来ないせいもあったのかなと思いますけれども。すみません。

（大野委員）

いえいえ、坂上委員が言うのはとてもいいお話だと思って聞いていたのですけれども、新潟市内にある県立の施設は、市の負担もゼロ円ではなくて、県も負担していますけれども、市も負担しているわけです。それで、所有者が県ということになっているので、市が全く負担をしないでそれだとあれですけれども、新潟市も、デンカビッグスワンスタジアムですけれども、かなりの金額を負担しているので、持っている県と同じような権利を持つのは大事な要素だと思います。

（西原会長）

そうですね。これは建設とか運営の手法のところで、ぜひ、具体的に議論していったほうがいいですよね。では、それを盛り込んでいきましょう。

あと、いかがですか。さらに３、４、５の中で細かいところを、例えば、交通インフラ、空港のあり方とかそういうこともありましたけれども。

（中山委員）

先ほど大野委員がおっしゃっていた防災というか災害時という。今、とにかくいろいろな災害が激甚化していますよね。ですので、防災拠点として使えるということを、別に項目出しではなくて、何かキーワードで入れておくと、先ほど聞いた、確かに、今、道の駅も防災拠点にしますなんて言ってやっているくらいなので、そういうことは少し、今の時代に合っているかなと思います。未来のことだから、もっと拠点化がうまくできるかもしれないですけれども。

（西原会長）

そうすると、建設や運営の手法の中に防災も一つ入れますか。

（山口委員）

防災も拠点化の一つのカテゴリとして見てもいいかもしれないですね。

（中山委員）

キーワードに入れておかないと、絶対に忘れてしまうので。

（山口委員）

資料９のエリアの中の施設をどうしようかということが中心になってくるような気もするのですけれども、ただ、懸念が一つあるのが、ピンポイントに言うと鳥屋野野球場なのですが、野球は一つの施設で１試合しかできない、けれども、新潟に全国大会を誘致しようとすると、実はけっこう新潟市開催を選んでもらえることがあるのですが、これは野球場がたくさんあるからなのです。メインの決勝戦はHARD OFF ECOスタジアム新潟でできるのだけれども、きちんとした競技できる野球場が新津にもあるし白根にもあるし黒埼にもあるし、あちこちにあるから同時開催ができるという利点があるからです。もう一つ、サッカー場に関しても１面で１試合しかできないという性格があるので、エリア内よりもう少し大きいエリアでの議論をしていかないと、いけないのかなと思っています。

そういった意味で、サッカーとか野球とかに関しては市内施設の稼働率なども少し参考にしていく必要があるのかなという感想を持ちました。

（西原会長）

これは４ですね。エリアにある同類施設の役割と必要性の中に、特に既存の野球場を。

（山口委員）

エリアに限定されるのが、少し議論の幅を狭くするのかなというものもありますねと。

（西原会長）

分かりました。

ほかにいかがですか。

よろしいですか。では、今後ですが、今の議論を踏まえて、事務局へ議事の設定をお願いしたいと思います。

では、課長、お願いします。

（寺尾スポーツ振興課長）

ここまで、皆様、非常に有意義なご議論を展開していただきまして、ありがとうございます。感謝しております。

今後の進め方についてですが、恐れ入ります、資料８、今後のスケジュール（案）をご覧ください。論点についてはこの五つで皆様からご了解いただいたと私どもは理解しておりますが、よろしいでしょうか。

それで、本日ご議論いただきました論点につきましては、こちら、今後の会議のスケジュール（案）に今後の大旨の開催月と論点、そのときに議論する点について記載しております。こちらのスケジュール、若干、今後の議論の中で変更があるかもしれませんが、概ね６回を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。ただ、議事の割り振りはこちら、先ほど申しましたとおり、あくまでも案ですので、今後の議論の進め方、それから、皆様にお願いする中で変更させていただく場合もありますので、ご了承ください。

なお、次回の第２回ですが、こちらのスケジュールにあるとおり、先ほどご議論いただきました、想定するエリアにおける「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設について、委員の皆様の思い、お考えですとかご意見を集約したものをお示しし、議論をする会にさせていただきたいと考えております。つきましては、後日、メールでフォーマットといいますか様式を遅らせていただきますので、そちらに皆様の「県都・政令市にふさわしい」スポーツ施設についての思いとかご意見をご回答いただきたいと思っております。出そろいましたら、

事務局で集約させていただきまして、議論の土台になる案などを作成させていただきたいと思いますので、ご了解のほど、よろしくお願いいたします。

（西原会長）

では、予定の議事はすべて終了となりますが、全体を通してご意見等ありましたらお願いいたします。

（坂上委員）

感想を言うと、これをぱっと見て、体育館のところに新しいアリーナができると、三つ並んでいいなと。それで、地下に駐車場か何かを造って、新潟県民会館も新潟市民芸術文化会館も今、駐車場の出入りが大変なので、やると。10 年後、そうなっているといいなと思います。感想です。

（西原会長）

ほかにいかがでしょうか。

よろしいですか。皆さん、円滑な議事の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

それでは、事務局にお返ししたいと思います。お願いします。

（司　会）

西原会長、スムーズな進行、誠にありがとうございました。委員の皆様におかれましても、貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。本日頂戴しましたご意見を踏まえまして、次回以降へと進んでまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

次第５にその他とありますが、事務局からは特にありません。委員の皆様からはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして、第１回新潟市スポーツ施設の未来構想会議を終了いたします。本日は、誠にありがとうございました。